



平本さん(左から2人目)の指導で、平井教授(左)とともに「かご染め」による染め直しを体験する学生ら(桐染)

# 古着「染め直し」体験

産地・桐生を学ぶファッション専門職大生

## FWで作品展開催へ

桐生を舞台に「産地概論」のゼミを開いている国際ファッション専門職大学(東京西新宿)の学生らがこのほど、桐生市東五丁目の染色工場「桐染(旧山崎染色)」で、洋服の染め直しを体験した。持参した古着が伝統的な染色技法によって新たな色彩を放つ様子を楽しんだ学生らは、29日から11月7日まで開かれるイベント週間「桐生ファッションウィーク(FW)」に参加し、染め直した洋服を展示する計画だ。

### 伝統の技術に「ワクワク」

同大は2019年から平井秀樹教授(経開設した4年制の私立(営学)のゼミを受講する専門職大学で、今年度、3年生21人が桐生を

舞台に通年で産地概論を学んでいる。

7月に桐生の織物や刺しゅうの工場、セレクトショップなどを巡ったの続き、1泊2日で桐生を再訪した学生らは、個々に課題をこなすため市内の企業を取材しつつ、2日に分けて桐染の工場を訪問。古着などを持参し、「かご染め」「抜染」「タイダイ(絞り染め)」の3種類の技法で染め直しに挑戦した。

山崎染色の4代目として家業の再構築に挑む平本ゆりさん(35)が昨年始めた染め直しは使い古した洋服に新たな命を吹き込むもの。「エコ」や「サステナブル(持続可能性)」といった時代の要請にもかかっており、これから

のファッション産業を志す学生にとっても有意義な体験となった。ゼミ生の大場朝希さん(23)「東京都」は、「きれいな色を出すための職人の大変さや、手仕事のものへの価値を知ってワクワクした」。碓井製糸(安中市)なども視察したといい、「どの企業もオープンな姿勢が印象的。ものづくりの過程を公開してもらえると、私たちがその技術や製品の価値を知ることができる」と、伝統の染色技術を学生らに惜しみなく披露した桐染に感謝する。

学生らが染めた作品は、FW期間中の30、31日の2日間、桐生の繊維産業に光を当てるイベント「桐生テキスタイルマンス」の一環として、有隣館煉瓦蔵で展示する予定。同ゼミは桐生での1年間の活動を電子書籍にまとめる計画だ。